

【基盤研究(S)】

大区分A



研究課題名 シナ=チベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論

京都大学・人文科学研究所・教授

いけだ たくみ
池田 巧

研究課題番号：18H05219 研究者番号：90259250

キーワード：シナ=チベット諸語、古代漢語、牧畜民型と農耕民型、言語類型地理論

【研究の背景・目的】

本研究は、シナ=チベット諸語の地理的多様性と連続性、類型構造の深層における共通性を探究し、アジア地域における諸言語の類型構造の漸次的推移に反映された歴史的変化の諸相を解明する。未記述言語の調査を進め、類型構造の分析を深化させ、古文獻記録に見える言語データと比較することで、古代漢語や西夏語を含むシナ=チベット諸語の系譜と相互関係を実証的に再構築していく。言語間の類型構造の類似が、果たして同系の祖語からの継承なのか、接触による影響なのか、あるいは独自の発達を遂げた結果なのかを検証する。

日本から提唱された東アジアの諸言語に関する巨視的な理論である言語類型地理論をシナ=チベット諸語においてより広範に検証を行ない、発展的な継承と展開を進めることで、ヨーロッパの歴史言語学が確立した比較方法による研究の限界を補強し、アジアの諸言語の記述分析と歴史の再構築に新たな視座からの貢献を旨とする。

【研究の方法】

シナ=チベット諸語および漢語方言について、分析する共通テーマの類型構造を慎重に選定し、未記述言語と文献の現地調査を行ない、その発展のメカニズムを分析して地域特徴の形成を解明していく。春と秋に定例の研究集会を開催し、シナ=チベット諸語の類型構造の共通性と多様性、およびその対応関係を検証する。また各種の言語調査票および主要な語彙データ集の統合索引を作成し、データの利用と参照の便を図る。

研究データの収集は、[1] シナ=チベット諸語の未記述言語の調査 [2] チベット文語の成立と基層言語の探究 [3] 民族文字文献に記録された言語の分析 [4] 出土文献資料による古代漢語の構造分析 [5] 漢語方言の地域的変容の調査 を実施する。



図1 民族文字資料

分析する研究課題の候補は、*名詞句の構造 *使役構造 *自他動詞の派生と交替 *能格構文 *声調交替の文法機能 *音調のメカニズム *空間認識と動作の方向性 *動詞接辞の機能と発展 *人称接辞の消長 *確認性の表示 など。選択と順番は研究動向とデータの蓄積を勘案しつつ適宜判断していく。

【期待される成果と意義】

フィールド調査によって未記述の言語データを蓄積し、類型構造の内部分析を丁寧に行ない、その機能とメカニズムの発展の方向性を解明する研究を積み重ねることで、東アジアの言語史を再構築する。個別の言語の分析から出発して、類型構造ごとに有機的な連鎖が存在することを見いだしつつ、多様性を呈するに至った変容の諸相を記述して明らかにしていく。

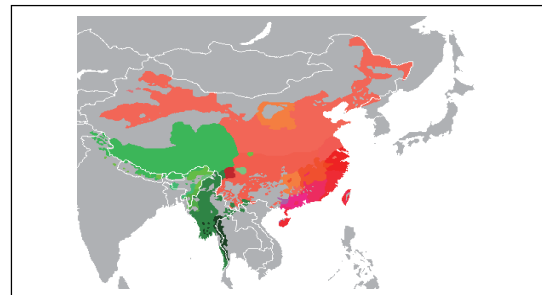


図2 漢藏語分布域

言語の系統を越えた類型特徴の地理的な推移がどのように形成され、それがどのような歴史を反映しているのかを探究し、文献記録をもたない言語の歴史を読み解いていく。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- 池田 巧 (編) 『シナ=チベット系諸言語の文法現象 1 名詞句の構造』 京都大学人文科学研究所、2016年
- 池田 巧 〈俯観藏羌彝走廊的語言分布及其相關的研究課題〉 張 曦、黃成龍 (主編) 《地域社會深描》 北京：社會科學文獻出版社、2017年、001-019頁。

【研究期間と研究経費】

平成30年度—平成34年度
130,400千円

【ホームページ等】

準備中